国立大学法人　山形大学

事 業 名	「災害発生時ー大地震、火事、停電から身を護るには？ （How to protect yourself from disaster？）						
実施期間	平成26年6月21日（土）（1回目）、10月15日（水）（2回目）、平成27年1月15日（木）（3回目）						
場　　所	山形市市民防災センター（1回目）、山形国際交流会館（香澄町）（2回目）、小白川キャンパス基盤教育1号館126教室（3回目）						
参 加 者	外国人留学生	地域住民	学生	スタッフ	関係者	来場者	合計
	99	1	7		13		120　名

＜実施内容＞

＜1回目＞
本学の留学生28名と大学職員2名が参加し、訓練として約1時間半にわたり、起震装置による震度7の地震体験や水消火器を使った消火体験、煙が充満した部屋からの脱出体験、119番（火事・救急）への模擬通報体験、応急手当体験などに取り組みました。

＜2回目＞
今秋10月に入学した短期留学生ら38名と会館に住む日本人学生チューター1名、大学職員5名の計44名が参加し、約2時間にわたり、心肺蘇生・AEDを用いた除細動、気道異物除去をメインとした救急法短期講習（協力：日本赤十字社山形県支部）のプログラムに取り組みました。さらに、国際交流会館の居住者（約50人）を対象に一食分の非常食を摂ることを想定し、非常時炊き出しの実践として、炊飯活動と大鍋による調理に挑戦しました。

＜3回目＞
小白川キャンパスで学ぶ留学生・日本人学生を中心に計46名が参加し、毛布を使っての傷病者の搬送方法を実演したり、留学生宿舎に備蓄してある防災用品を実際に使って、どういうものであるのかを学びました。

「緊急地震速報」を知らせるモニタ画面とサイン音に、思わず身構える留学生

水消火器を実際に使って、消火作業に挑む留学生

人工呼吸とAED機器の電気パッド取り付け作業を同時並行で行う留学生心肺蘇生法とAED機器

心肺蘇生法とAED機器の使い方について講義する指導員とその通訳をする職員

指導員の模範作業を見て、実際に一連の作業に取り組もうとする留学生たち

毛布を使っての搬送方法を学び、実際に取り組んでいる留学生と日本人学生たち

留学生宿舎に備蓄された防災用品にどういうものがあるのか、実際に使って効果を確かめる留学生

○平成20年に起きた岩手・宮城内陸地震と同じ強さの揺れを、起震装置で実際に体験します（No.1　上段左）
○市民防災センター職員の指示で、水消火器を実際に使用してみます（No.2　上段右）
○AED機器の指示に従いながら、電気パッドを人形の身体に貼り付けていきます（No.3　中段左）
○心肺蘇生法とAED機器の使用方法について講義する指導員と、その通訳をする本学職員（No.4　中段右）
○実際に人工呼吸・心肺蘇生・AEDによる電気ショックという一連の動作に取り組む留学生（No.5　下段左）
○毛布を使って、複数人で傷病者に見立てた学生を搬送します（No.6下段中）
○ポリバケツに非常用トイレキットを組み込み、実際に使用して、その効果を確かめます（No7下段右）

＜参加者からのコメント＞

李　延雪さん（中国）/LI YANXUE（China）

このセミナーに参加して、地震についての常識、火事が起きたときの対応、及び誰かに対しての応急処置などのことについて、とても勉強になった。これからの生活の中でも役に立つと信じている。いろいろ実際に体験させていただいて、とてもありがたかった。

アラガキ　ミヤシロ　パトリシア　ルイーサさん（ペルー）/ARAGAKI MIYASHIRO, PATRICIA LUISA（Peru）

It is known that the best contingency plan before a disaster is prevention and capacitation. This seminar reached its goal and it was very educative to count with experts on the topic. Also a great opportunity to share and interact with everybody. Thanks a lot.